

How To 事業承継

特集2

事業承継のことなら、まずは
京都府事業承継・引継ぎ支援センターへ
ご相談ください

休廃業・解散が
増加傾向にあります

2023年の京都府内企業の倒産件数は、前年比3割増の302件となり、2年連続で増加。休廃業・解散も前年比2割増の1068件と、こちらも2年ぶりの増加となりました（帝国データバンク京都支店調べ）。物価高や人手不足、人件費高騰といった経営課題が重なり、業績が悪化する中で経営者は「事業継続か否か」の決断を迫られています。その結果、事業の継続を断念して会社をたたむ「あきらめ廃業」が多発した可能性があります。一方、休廃業時の経営者の年齢は70代以上が65.7%を占めています。後継者へのバトンタッチができないまま代表者の高齢化が進み、休廃業・解散を余儀なくされるケースも多いと見られます。

技術・ノウハウ等企業の
強みを
しっかり引継ぐために

京都府事業承継・引継ぎ支援センターは、円滑な事業承継を支援するため、京都商工会議所が国の委託を受けて設置している公的な支援窓口です。「経営者が高齢で健康に不安がある」「経営が厳しい」「引継ぎ手が見つからない」といった理由で、多くの方がご相談にお越しになります。特に昨年からは第三者承継の希望が増加し、親族承継だけでなく多様な承継のご相談を受けるようになってきました。じっくり傾聴、寄り添った支援をモットーに、丁寧な対応を心がけています。経営者の思いを第一に、「強み・弱み」といった実態をしっかりと分析し、その事業をどうしていきたいのかを確認した上で、後継者への引継ぎや相手探しをお手伝いします。

早めのご相談を

失敗しない事業承継のポイントは、①早期に準備を始め、②譲る側と引継ぐ側がしっかりとした覚悟を持った上で、③承継を含めた将来の長期経営計画を立て、その計画の見える化（共有）を図ることです。当センターでは、経験豊富な金融機関OB、公認会計士、弁護士、中小企業診断士といった専門家が皆様のご相談に応じます。事業承継は、経営者にとって重要なミッションのひとつです。事業をどう継続していくか、まずはお気軽に当センターへご相談ください。

次ページからは、経営者の思いを大切に、京都の各支援機関が協力してオンリーワンの技術を引継いだ事例をご紹介します。



技術の価値と魅力を引き継ぐ

— 承継が互いの新たな未来を開く

創業者のものづくりの思いを
未来につなぐ



木をはじめとする天然素材向けのコーティング剤の研究開発に情熱を傾けてきた株式会社丹宇の伊藤博さん。70歳を超え、事業承継を意識し始めた矢先、技術の価値を評価してくれる企業と出会った。「京都府事業承継・引継ぎ支援センター」のサポートを受け、自社事業の成長・発展に活かそうとする企業へ、事業のバトンタッチが始まった。

先代が材木商を営んでいた経験から木材に関する豊富な知識を活かし、さまざまな機能性塗料の研究・開発に取り組んできた株式会社丹宇の伊藤さん。京都大学生存圏研究所との産学連携で生まれた「タウングード」は、環境に配慮した独自の撥水・撥油機能を有するコーティング剤で、木や竹、漆喰等の天然素材が持つ風合いを損なうことなく、長期間、優れた防汚・抗菌・防腐効果等を発揮する。この技術は、木造建築物・文化財の保護等、幅広い用途で活用されている。

伊藤さんは、「自分が育てた商品をもっと多くの人に使ってほしい」と考えていたが、販路開拓は口コミが中心で、新たな取引先の獲得や商品の売り込みに注力することが難しいこともあり、70歳を過ぎた頃から事業承継を意識するよう

になったという。別業種に就職した子どもたちに会社を継ぐ意思はなかったため、身近な相談窓口である京都商工会議所洛西ビジネスサポートデスクに相談、「京都府事業承継・引継ぎ支援センター」のサポートを受けることとなり、バトンパスに向けた取り組みが始まった。

そんな中、マッチングの相手として真っ先に手を挙げたのが、久御山町に本社を置くプラスコート株式会社だった。創業以来、プラスチック素材への電磁波シールドコーティング（導電塗装）を得意としてきた同社だが、ますます多様化する少量多品種の塗装ニーズに応えるため、10年前にクリエイティブ事業部を立ち上げ、お客様専用のオーダーメイド塗料の開発等、新規事業にも力を注いでいる。



プラスコート株式会社
田邊部長

プラスコート株式会社
佐藤相談役

プラスコート株式会社
安田社長

株式会社丹宇
伊藤さん

京都府事業承継引継ぎ支援センター
重野 統括責任者代理



タウンガードの技術から 新たな塗装市場の開拓を

DATA

プラスコート株式会社 <https://plascoat.co.jp/>

代表者 | 安田 知穂

本社 | 京都府久世郡久御山町森川端91-1

クリエイティブLab | 京都市伏見区治部町105
京都市成長産業創造センター (ACT京都) 304号

事業内容 | 樹脂へのコーティング加工、導電塗装、
機能的塗膜・フィルム等の研究・開発、
EMC関連製品の販売等

親身なサポート体制で 承継の負担を軽減

研究開発部長の田邊さんは、以前からビジネス交流会等を通じて、伊藤さんが持つ木材塗装の知識や誠実な人柄に魅力を感じていた。かねてより付き合いがあったASTEM(京都高度技術研究所)から伊藤さんの事情を聞き、「タウンガードの技術が絶えてしまうのは惜しい！」

自分たちが受け皿になれないか」と思ったという。代表取締役社長の安田さんは、事業承継を決断した理由についてスタッフの強い推薦と新たなビジネスへの期待だと語る。「建築関連等、私たちにとって未開拓の塗装市場は大きなチャンスだと確信している」。

「ハッピーリタイアが目的ではない」と伊藤さん。丹宇という会社の看板にこだわりはなかったが、これまでの取引先を大切に引き継いでほしい、そして、まだまだ道半ばの研究開発の仕事をこれからも続けたい…という二つの要望を持っていた。

経験豊富な専門家が寄り添い、伊藤さんの思いをかなえるべく、株式譲渡ではなく、事業譲渡による引き継ぎを提案。契約書の作成サポートはもちろん、必要な手続きや手順のアドバイス、さらに製造装置や備品類の移設費用については、京都産業21が実施する京都府の補助金を活用する等、親身なサポートを行った。その結果、事業承継の支援が始まってわずか半年余りの2024年4月1日、事業譲渡は無事完了。「双方にとって負担が少ない形で、スムーズな事業譲渡を実現できた」と安田さんと伊藤さんは笑顔を見せた。

現在、伊藤さんは技術顧問として、週3日、プラスコートで仕事を続けている。経営者の肩書が外れたことで、「タウンガードの研究や製造に集中できるようになった」と話し、趣味のクラシックギターを楽しむ時間的余裕も生まれたという。

「今後は、伊藤さんが培ってきた技術と知識を社内に蓄積・共有していく必要がある」と田邊さん。プラスコートがACT京都(京都市成長産業創造センター)に拠点を構えるクリエイティブLab内にタウンガードの研究スペースを確保し、若いスタッフへの技術承継を進めていく予定だ。
当センターを中心とした多様な関係機関のサポートで、京都発の塗装技術は新たな歩みを始めた。伊藤さんのものづくりへの思いと、プラスコートのスタッフの情熱が混じり合い、今、新たな化学反応が起きようとしている。



これからも 研究開発の仕事を続けたい

お問い合わせ

秘密厳守・公正中立・相談無料

京都府
事業承継・引継ぎ支援センター

〒600-8565 京都市下京区四条通室町東入
京都経済センター7階
京都商工会議所中小企業支援部内
☎075-353-7120 ✉sjb@kyo.or.jp

